資料－１

新　商　第　３３８　号
令和　３　年　１　月１８日

新見市観光事業審議会会長　様

新見市長　戎　　斉

新型コロナウイルス感染症の収束を
見据えた新見市観光事業について（諮問）

このことについて、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた新見市観光事業を検討したいので、新見市観光事業審議会規則（平成１７年規則第１４９号）第２条の規定により、意見を求めます。

資料－２

観光事業審議会の審議の進め方

１　第１回審議会

（１）日　時　　令和３年１月１８日（月）１４時～

（２）場　所　　市役所南庁舎３階大会議室

（３）議　事　　市観光事業の現状と課題の把握

２　第２回審議会（案）

（１）日　時　　令和３年２月１７日（水）１０時～

（２）場　所　　市役所南庁舎３階大会議室

（３）議　事　　市観光事業の課題の把握と今後の展開

３　第３回審議会（案）

（１）日　時　　令和３年３月１９日（金）１４時～

（２）場　所　　市役所南庁舎３階大会議室

（３）議　事　　市観光事業の今後の展開と答申案の協議

４　答申（案）

（１）日　時　　令和３年３月２６日（金）１３時３０分～

（２）場　所　　市長室

（３）答申者　　会長

資料－３

令和2年度
新見市観光事業審議会資料

第3次　新見市総合計画

産業経済　産業の活力を高め、持続可能な地域経済をつくる

1-6 観光

現状と課題

本市への観光客数は、観光ニーズの多様化や団体型から個人型へという観光の形態が変化してきていることなどから減少傾向にあります。

さらに、広い市域に観光地が点在していることや宿泊施設数が限られているため、市内滞在時間が短く、観光消費額が低い傾向にあります。

本市では、千屋牛やピオーネなどのＡ級食材を観光ツールとして交流人口の拡大に努めているほか、マスコットキャラクターをＰＲ活動に活用しています。

また、市内の観光地を巡る周遊型観光ツアーを企画する旅行業者を支援するなどし、観光客の誘致を図っているところです。

1-6 観光

❶ 特長ある観光資源の開発

■観光ニーズが変化する中で、「観る」観光だけでは限界を迎えており、本市の特長である自然資源や産業資源を活用した観光資源の開発を進める必要があります。

■観光滞在時間を伸ばすため、観光地相互の連携を強化するとともに、魅力ある「食」「体験」が提供できる体制づくりを進める必要があります。

❷ 観光基盤の整備

■施設の老朽化などにより観光地としての魅力が低下しつつあることから、計画的な更新・修繕が必要となっています。また、災害により被災した観光地の早期復興を進める必要があります。

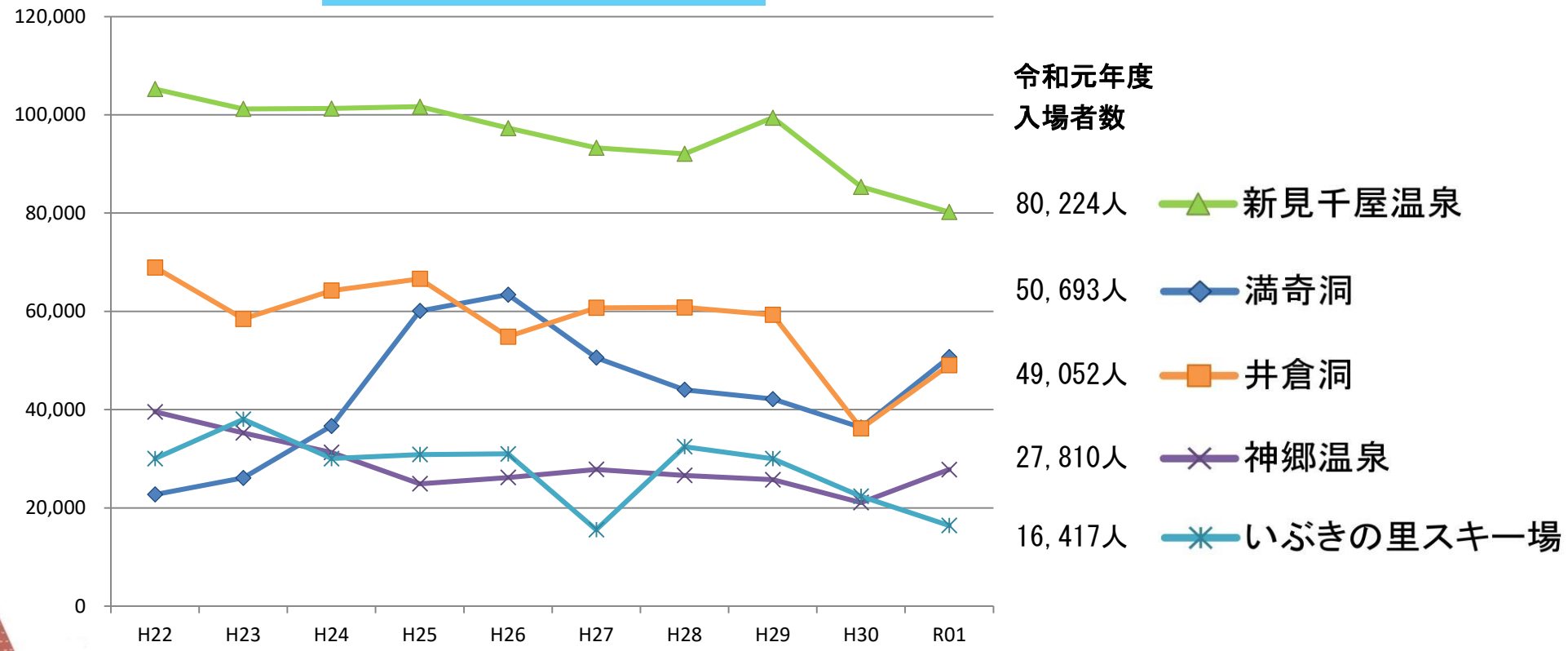
❸ オール新見での観光振興体制づくり

■観光施策を進めていくためには、関係者が連携・協力していくことが求められます。
その中心組織として「新見市観光協会」の組織強化を図る必要があります。

❹ インバウンドの受入体制

■国内人口は減少していることから、観光客増加を目指すためには外国人観光客の誘致を行う必要があります。外国人受入体制及び魅力的な観光ルートを整備する必要があります。

主要施設入場者の推移



観光資源を磨き、交流を促進しにぎわいを創出する

主要な施策・取組

1 地域資源を活用した観光振興

- 観光関連事業者や団体などと連携し、市内の豊かな自然や歴史、文化などの地域資源を活用した観光客誘致に努めます。
- 観光商談会などを通じて、旅行事業者などへ旅行商品開発を働きかける取組を強化します。

2 観光客の受入体制の整備

- おもてなしの心を持って観光客を迎え入れる意識の向上を図るとともに、関係団体などと連携して、インバウンドへの対応を推進します。
- 新見市観光協会の体制強化を進め、関係者が連携して観光客誘致に取り組む仕組みづくりを進めます。

3 観光資源の魅力向上

- 既存の観光資源の魅力向上と新たな観光資源の掘り起こしを行い、新見ならではの特長ある観光ルートやＡ級グルメをはじめとした特産品・土産品などの開発を進めます。
- 食や体験をキーワードとした多様な観光の受入体制づくりを進めます。
- 観光施設や設備の計画的な更新・修繕を進め、魅力ある観光地づくりを進めます。

4 戦略的な情報発信

- ＶＲやドローン映像などを交えた観光情報をＳＮＳなどで発信し、観光客誘致につなげます。
- 集客の多いイベントなどでのＰＲ活動やマスコットキャラクター、「ふるさと大使」制度を活用した情報発信に努めます。

達成目標	指標	単位	現状値	目標値	
	主要観光施設入場者数	万人/年	27.3	36.0	↗
	観光客アンケート満足度	%	79.1	83.0	↗

Ⅰ　策定の背景と目的

1 新見市が抱える課題

●人材不足や後継者不足、さらに高齢化、都市への人口集中等による商圏内人口の減少、域内消費の鈍化などが課題となっています。

2 プラン策定の目的

●訪日外国人の増加が期待される中、国内観光客においては嗜好やライフスタイルの変化等により体験・経験型観光に関心が高まっています。

●こうした環境の変化に対応し、商圏内人口の減少や域内消費の鈍化など、本市の抱える課題の解決のため、観光アクションプランを策定し、国内観光客や訪日外国人を本市に呼び寄せ、滞在時間を伸ばし、さらにはファン（リピーター）を増やすことで、地域内消費を増加させ、各種産業や地域を活性化させることを目指します。

3 新見観光ブランドの確立

●市域全体を広大なキャンバスとし『石灰(らいむ)』が織りなす本市の観光資源を『芸術(アーツ)』と捉えます。そして、雪(スキー場)・鍾乳洞・和紙・米・清流などの観光資源を『白』とし、千屋牛・ピオーネ・たたら・木炭、ＳＬなどの観光資源を『黒』と捉え、これらを施策により彩り豊かに仕上げていく願いを込めて『**～白と黒の不思議～らいむアーツにいみ**』を、新見市の観光ブランドとして提唱します。

Ⅱ　全体像

■ プランは４つの基本戦略、10の戦略プロジェクト、22のアクションで構成

基本戦略 1　一元的な情報発信とブランドプロモーション

戦略プロジェクト		アクション	
①	情報受発信の体制構築	1	ポータル（WEB）サイト立ち上げ
		2	新見ファン開拓・組織化と情報発信
②	地域イメージ・ブランドの発信プロモーションの展開	3	地域のキラーコンテンツ・イメージの積極的な発信 ここにしかないものに光をあてたストーリー
		4	市全体のプロモーション展開
③	運営管理の徹底と戦略組織づくり	5	定期的な顧客満足度調査の実施
		6	各種取り組みをマネジメントする人材の育成・登用

Ⅱ　全体像

基本戦略２　個々の魅力づくりと受入れ体制づくり

戦略プロジェクト		アクション	
④	地域に眠る資源の掘り起こしと磨き上げ	7	地域の資源“お宝”発見とデータベース化
		8	地域の魅力を伝える地域学「新見学」ストーリーの編集
		9	地域ならではの特徴ある食・土産物の開発
⑤	地域資源を活かした体験プログラムづくり	10	資源の磨きあげによる特徴あるプログラムづくり
		11	プログラムの組み合わせによる着地型の（ディープな）旅行商品づくり
⑥	持続可能な受入れ体制づくり	12	運輸事業者や旅行会社との連携による商品の流通
		13	観光コンシェルジュ・まちづくり事業体の形成

Ⅱ　全体像

基本戦略３　地域間連携とネットワーク化

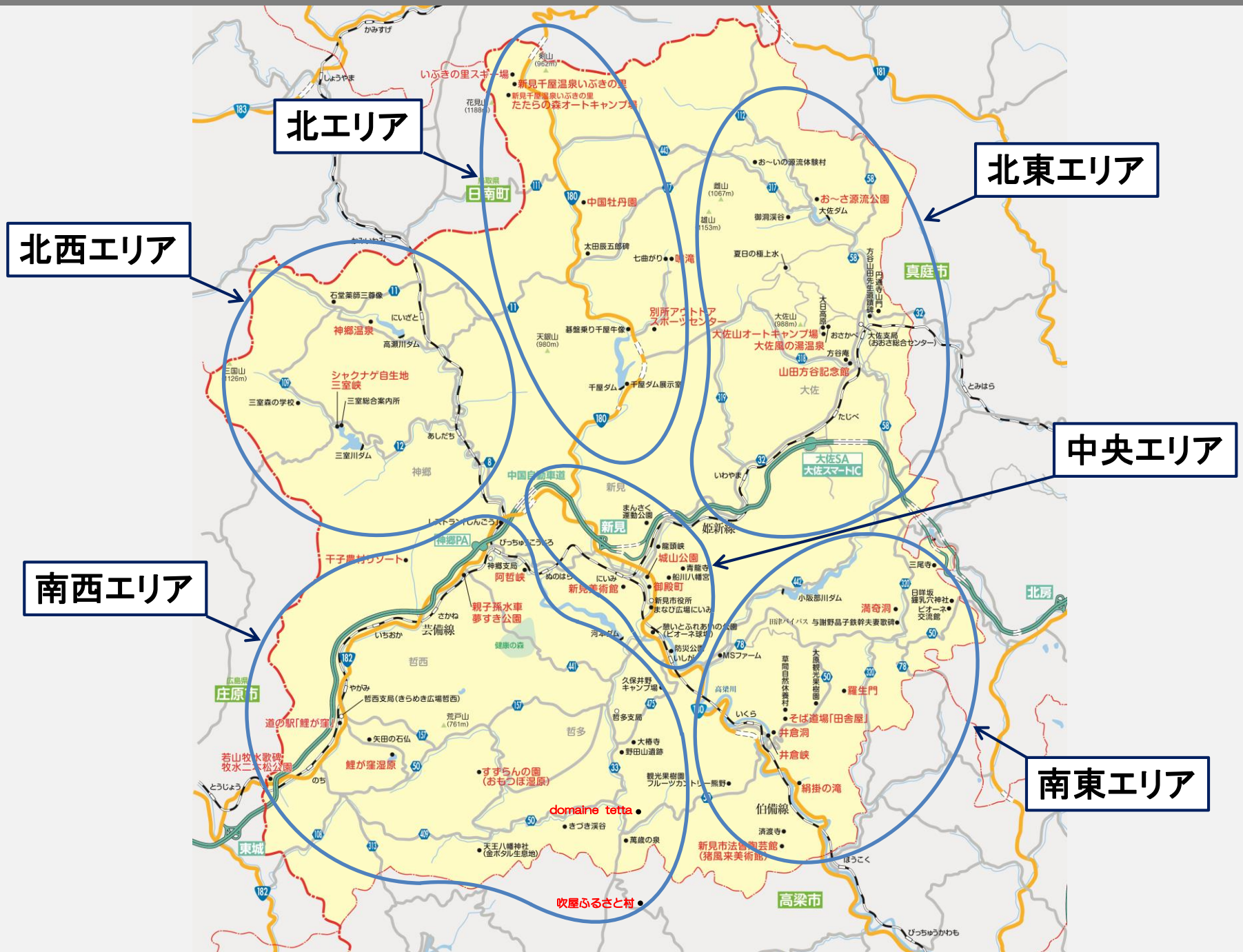
戦略プロジェクト		アクション	
⑦	新見市の観光・交流のものがたりづくり	14	他地域の魅力を知る～市民による観光・交流の実践
		15	「新見ものがたり」観光モデルコースづくり
		16	隣接市町や他県などの広域連携の実践
⑧	おもてなしの心・環境づくり	17	次世代の地域文化を担う人材育成とおもてなしの演出
		18	観光におけるユニバーサルデザインの推進と五感を活かした観光
		19	地域の魅力を伝達するガイドの養成とスキルアップ

Ⅱ　全体像

基本戦略 4　交通環境整備と快適回遊の実現

戦略プロジェクト		アクション	
⑨	二次交通の充実化	20	観光乗合タクシー・観光タクシーの充実
⑩	快適回遊のためのアクセス環境づくり	21	地域を安心して巡れる交通環境づくり
		22	安全・快適な巡り歩き環境づくり

アクセス幹線道を基準とした観光ゾーニング



北エリア

132,969人

北西エリア 34,432人

8 新見日南線　11 新見多里線　12 足立東城線

神郷温泉 27,508人

高瀬湖畔オートキャンプ場 302人

三国窯

三室森の学校 122人

三室峡・三室総合案内所 6,500人

足立石灰

南西エリア

134,572人

182 国道182号

33 新見川上線

441 下神代哲多線

レストランしんごう 9,245人

千子農村リゾート 185人

紙の館・親子孫水車 17,807人

荒戸山

道の駅鯉が窪 58,469人

鯉が窪湿原 6,160人

牧水二本松公園

天王八幡神社・金ボタル

祥華 41,630人

久保井野キャンプ場 76人

すずらんの園

domaine tetta

吹屋ふるさと村

中央エリア

201,788人

180 国道180号

32 新見勝山線

まんさく運動公園

さーちゃんミニヤギ牧場 500人

観光案内所 9,865人

新見美術館 23,423人

城山公園

まなび広場にいみ

青龍寺

船川八幡宮

御殿町

あしん広場特産館 168,000人

あしん広場グリーンセンター 20,000人

焼肉千屋牛 60,000人

ピオーネ球場

防災公園

北東エリア

28,640人

32 新見勝山線　58 北房川上線　112 大佐日野線

大井野源流体験村　58人

雄山・雌山

赤松溪谷

御洞溪谷

夏日の極上水

まんさく園　3,000人

岩山駅

おおさ源流公園　6,115人

大佐山

大佐山オートキャンプ場
13,497人

大佐風の湯温泉　3,125人

アーリーモーニング
1,500人

方谷庵・山田方谷記念館
1,345人

醍醐桜

大佐サービスエリア

南東エリア

131,383人

180 国道180号

50 北房井倉哲西線

78 長屋賀陽線

三尾寺

ピオーネ交流館

備北ハイランドサーキット

満奇洞 50,693人

草間の間歇冷泉

羅生門・さくら公園

大原観光果樹園 20,000人

草間自然休養村 544人

田舎屋 8,892人

井倉洞 49,052人

絹掛の滝

MSファーム 428人

石灰採掘場

フルーツカントリー熊野 600人

猪風来美術館 1,174人

エリア別の観光誘客数

エリア	誘客数	主要施設名	公表誘客数	主要施設誘客数	備考
北	13万3,000人	○新見千屋温泉	80	80	
		○いぶきの里スキー場	16	16	
		○別所アウトドア	2	2	
		花見養魚センター		30	
北西	3万5,000人	○神郷温泉	28	28	
		三室峡		7	
南西	13万4,000人	○紙の館･親子孫水車	18	18	
		○鯉が窪湿原	6	6	
		○干子	0	0	
		道の駅鯉が窪		59	
中央	20万2,000人	あしん広場		168	
		新見美術館		24	
		観光案内所		10	
		御殿町		0	
北東	2万9,000人	○大佐山オートキャンプ場	14	14	
		○おおさ源流公園	6	6	
		○風の湯温泉	3	－	主要施設の集計から除外
		まんさく園		3	
南東	13万2,000人	○満奇洞	51	51	
		○井倉洞	49	49	
		大原観光果樹園		20	
		羅生門		0	
計	66万7,000人		273千人	591千人	

北エリア

現状と課題

①新見千屋温泉いぶきの里

１９９６年開館、指定管理施設、指定管理料なし、施設使用料年３００万円、入湯税年７００万円、修繕等年１４００万円。入込客数約８万人（たたらの森オートキャンプ場含む）。２億円を超える売上がある。年間を通じて月に５千人から１万人の集客がある。約６億６千万円でリニューアル工事のため休業中。市内最大の入込客を市内の他施設に波及させることが課題。

②花見養魚センター

民間施設。入込客数約３万人。年度当初は新型コロナの影響を受けたが、その後アウトドアブームに乗って集客を伸ばした。冬期に雪が多いと入込客が減少する。

③いぶきの里スキー場

２００３年開場。指定管理施設、指定管理料なし、施設使用料年５００万円、修繕等年４１００万円。入込客数約１．６万人。約１億円の売上がある。気候により、毎年入込客は大きく増減するが、雪に恵まれれば１月、２月は月に１万人、シーズンに３万人の集客がある。今シーズンは、新型コロナの影響で入込客数は３万人を下回ると予想。グリーシーズンの施設の有効活用、今後数年で３億円を超える修繕が見込まれることが課題。

北エリア　つづき

現状と課題

④別所アウトドアスポーツセンター

１９９７年開館、指定管理施設、指定管理料３６６万円、修繕等年２３４万円。入込客数約２千人。年１６９万円の売上がある。年度当初に新型コロナの影響を受けたが８月の入込客は前年比４割増と検討した。１２月から３月は入込客がほとんどなく、この期間の集客増および選奨土木遺産に認定された用郷林道七曲がり、鳴滝、千屋ダムを活用した取組が課題。例えば、サイクリング、カヌー、釣りなど。

⑤剣山、高梁川源流、牡丹園、ふゆさと、千屋牛、ワサビ、鳴滝、七曲がり、千屋ダム、赤坂城跡、楪城跡、金持神社（日野町）

近隣施設。

今後の展開

①エリア内施設の連携

それぞれの誘客をエリア内の近隣施設に誘導する取組などの検討。

②エリア外施設の連携

日野町の観光施設と連携する取組などの検討。

北西エリア

現状と課題

①グリーンミュージアム神郷温泉

入込客数約３万人（高瀬湖畔オートキャンプ場含む）。１９９３年開館、指定管理施設、指定管理料１１００万円、入湯税年２５０万円、修繕等年５００万円。売上約５千万円。年間を通じて月に２千人から４千人の集客がある。約１億７千万円でバイオマスボイラの導入、グラウンドの芝生化、エアコンの更新などを実施。平日１４時からの入浴時間を土日祝日の１１時に合わせること、芝生化したグラウンドの活用が課題。

②三室峡･三室総合案内所

入込客数約６，５００人。春のしゃくなげまつり、秋の紅葉まつりの集客。芝桜を植栽。イベント以外での活用が課題。

③神郷第一スキー場

最大入込客数約９千人。１９９９年購入。指定管理者の応募がなく平成２５年度から休止。気候により、毎年入込客は大きく増減し、平成２４年度は約１千人。現在、放牧場として活用。再稼働する場合、リフト、センターハウス、ゲレンデなどの修繕に億を超える費用が見込まれる。

北西エリア　つづき

現状と課題

④三室森の学校、三国窯、あまご養殖場、三室川ダム、氷室とうふ、長久牧場、トマト、健康王国、井上靖記念館（日南町）

近隣施設。

今後の展開

①エリア内施設の連携

それぞれの誘客をエリア内の近隣施設に誘導する取組などの検討。

②エリア外施設の連携

日南町の観光施設と連携する取組などの検討。

南西エリア

現状と課題

①道の駅鯉が窪

入込客数約６万人。１９９６年開設、指定管理施設、指定管理料４５０万円、修繕等年５００万円。６千万円を超える売上がある。年間を通じて月に２千人から７千人の集客がある。約１億９千万円で空調の更新、自動ドアの設置などを実施。開設から約２４年が経過し、老朽化が課題。

②鯉が窪湿原

入込客数約６千人。指定管理料１１０万円、花が咲く５月から１０月は月に７００人から１５００人の集客。２０１６年から２０２２年３月までＪＴの森鯉が窪にいみに取組中。鯉が窪湿原を守る会が湿原環境維持の取組を確立。

③干子農村リゾート

入込客数約２００人。１９９４年開設。指定管理施設、指定管理料２０万円。年間を通じた誘客が課題。

④牧水二本松公園

１９９４年開設。指定管理施設、指定管理料２８万円。熊谷屋の活用が課題。

南西エリア　つづき

現状と課題

⑤紙の館･親子孫水車

入込客数約２万人。１９９１年開設。約１８００万円で水車などを改修。令和２年度から指定管理、指定管理料１５０万円。指定管理者による食堂のリニューアルオープンを契機に、マルシェなどの定期的なイベントの開催による誘客、紙すき体験の魅力発信が課題。

⑥矢神駅（御衣黄桜）、矢田石仏、太鼓田植、三光正宗、イノシシ肉、レストランしんごう、バイオマス発電所、荒戸山、荒戸神社、哲多和牛牧場、荒戸山ワイナリー、リンドウ、天王八幡神社、祥華、すずらんの園（おもつぼ湿原）、健康の森、domaine tetta、クニファーム、久保井野キャンプ場、野田山遺跡、山室軍平、備中神楽、吹屋ふるさと村（高梁市）

近隣施設。

今後の展開

①エリア内施設の連携

それぞれの誘客をエリア内の近隣施設に誘導する取組などの検討。

②エリア外施設の連携

庄原市東城、高梁市成羽の観光施設と連携する取組などの検討。

中央エリア

現状と課題

①あしん広場特産館

入込客数約１７万人（市内最大の集客力）。焼肉千屋牛併設。駐車場不足が課題。

②新見美術館

入込客数約２．４万人。１９９０年会館。運営委託料２１１２万円、修繕等年１００万円、４月から１１月は月に２千人から４千人の集客。冬期の集客、施設の老朽化が課題。

③御殿町

まち歩きガイドの会がガイド手法を確立。備中町並みネットワークに参画。太池邸内蔵にTrattoria Arcaがオープン。にいみ雛まつり、土下座まつり会場。太池邸、御殿町センターとの連携が重要。

④観光案内所

入込客数約１万人。土産物販売所。２０１９年開設。活動補助金１４００万円。土産物充実と土産物販売所の周知、駐車場が課題。

中央エリア　つづき

現状と課題

⑤新見庄関連史跡

１９９０年ボーイスカウト新見第一団がたまがき書状の返書を東寺から新見市へ伝達。１９９１年新見庄まつり開催。１９９３年中世たたら製鉄再現操業開始。１９９７年たまがき書状（東寺百合文書）が国宝に指定。史跡の価値・ストーリーを整理し、歴史を活かしたまちづくりを観光事業に発展させることが課題。

⑥さーちゃんミニヤギ牧場、新見駅、甌穴、城山公園、三日市ケレップ、まなび広場にいみ、まなびの森にいみ図書館、ピオーネ球場、防災公園、まんさく運動公園、青龍寺、船川八幡宮、城山公園、石灰採掘場

近隣施設。

今後の展開

①エリア内施設の連携

それぞれの誘客をエリア内の近隣施設に誘導する取組などの検討。

②エリア外施設の連携

市域の周辺エリアの観光施設と連携する取組などの検討。

北東エリア

現状と課題

①大佐山オートキャンプ場

入込客数約１万４千人。１９９４年開設。指定管理施設、指定管理料年１００万円、修繕年１０万円。年約２５００万円の売上がある。シャワートレッキング、洞窟探検、カヌー体験などのアクティビティが充実。トレーラーハウス３棟を３４９０万円、炊事棟を９９９万円で整備。平日および冬季の誘客、イノシシの出没による利用客の安全対策が課題。

②おおさ源流公園

入込客数約６千人。２００１年開設。指定管理施設、指定管理料年１７４万円。５月、７月は月に１千人、８月は月に３千人の集客。１月、２月は休業。カヌー用品の老朽化が課題。

③大佐風の湯温泉

入込客数約３千人。２００５年開設。指定管理施設、併設するＢ＆Ｇプール・体育館の指定管理料１４３０万円で運営。温泉法によらない浴場。７月、８月、９月のみ営業。

④まんさく園

入込客数約３千人。民間施設。

北東エリア　つづき

現状と課題

⑤山田方谷記念館

入込客数約１４００人。２００４年開設。指定管理施設、指定管理料１４５万円。高梁川流域連携中枢都市圏事業などとの連携が重要。

⑥アーリーモーニング、大佐神社、方谷庵、大井野源流体験村、雄山雌山、赤松渓谷、御洞渓谷、夏日の極上水、大佐サービスエリア、岩山駅（鬱金桜）、ヒスイ輝石、大佐茶、醍醐桜（真庭市）、勝山町町並み保存地区（真庭市）、道の駅がいせん桜新庄宿

近隣施設。

今後の展開

①エリア内施設の連携

それぞれの誘客をエリア内の近隣施設に誘導する取組などの検討。

②エリア外施設の連携

真庭市勝山、新庄村の観光施設と連携する取組などの検討。

南東エリア

現状と課題

①満奇洞

入込客数約５万人。管理委託施設、委託料９３７万円、その他費用２４３６万円。年４３９０万円の入洞収入。８月は１万７千人、ほか３月から１１月は月に２千人から７千人、１２月から２月は月１千人の集客。冬期の集客が課題。

②井倉洞

入込客数約５万人。第３セクター。年７６８万円の入洞収入。土地賃借料等３２３万円。８月は１万７千人、ほか３月から１１月は月に２千人から７千人、１２月から２月は月１千人の集客。冬期の集客、大規模浸水災害からの復興が課題。

③大原観光果樹園

入込客数約２万人。民間施設。モモ、ナシ、リンゴ。

④猪風来美術館

入込客数約１千人。２００５年開館。指定管理施設、指定管理料１８７万円。春・秋に縄文野焼き祭開催。

南東エリア　つづき

現状と課題

⑤羅生門・さくら公園

観光庁の誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成実証事業に採択。観光ガイドの養成、滞在コンテンツの造成に取組中。

⑥絹掛の滝、田舎屋、草間自然休養村、草間の間歇冷泉、大根、三尾寺、ピオーネ交流館、宇山洞、日咩坂鐘乳穴、バクダンキャンディー、備北ハイランドサーキット、ＭＳファーム、備中神楽、済渡寺（あじさい）、法曽茶、フルーツカントリー熊野、石灰採掘場、Ｄ５１、北房カントリー（真庭市）、備中鐘乳穴（真庭市）

近隣施設。

今後の展開

①エリア内施設の連携

それぞれの誘客をエリア内の近隣施設に誘導する取組などの検討。

②エリア外施設の連携

真庭市北房の観光施設と連携する取組などの検討。